

<原著>

## 中国人留学生と日本人大学生の自我状態の比較

柴原 直樹<sup>1)</sup>、遠藤 正雄<sup>1)</sup>、石井 恒生<sup>1)</sup>

### Comparison of Ego States between College Students from China and Japanese College Students

Naoki SHIBAHARA<sup>1)</sup>, Masao ENDO<sup>1)</sup> and Hisao ISHII<sup>1)</sup>

The purpose of this research was to investigate differences in the levels of ego states between college students from China and Japanese college students. In total, 93 Chinese and 131 Japanese participated in this research. Ego states were assessed by the TEG II which consists of 5 sub-scales, such as CP (critical parents), NP (nurturing parents), A (adult), FC (free child), and AC (adapted child). The results showed that Chinese students got a lower score on the scale of AC and a higher score on the scale of CP, NP, A, and FC than Japanese students.

**Key words** : egogram, ego states, college students, cross-culture

エゴグラム、自我状態、大学生、異文化

#### はじめに

青年期は、かつてスタンリー・ホール (Stanley Hall, 1846-1924) が「疾風怒濤」の時代と表現したように、急激な身体的変化に精神的発達が合い伴わないため情緒的に不安定で対立感情が相互に出現する、まさに動揺性と易変性を兼ね備えた激動の時代であり (福井, 2007<sup>1)</sup> 参照)、この時期の友人関係は、極めて親密で内面を開示し合い、人格的共鳴や同一視をもたらすような個別の関係の特徴とするとされてきた (岡田, 2010<sup>2)</sup> 参照)。

しかし、近年このような友人関係が日本の大学生において希薄化してきているとの指摘がある。見かけ上、円滑で楽しい友人関係を求めて群れたり (岡田, 1988<sup>3)</sup>、1989<sup>4)</sup>; 千

石, 1991<sup>5)</sup>、お互いの関係が深まり傷つき合うことを恐れて表層的な関係のままでいたり (千石, 1985<sup>6)</sup>; 栗原, 1989<sup>7)</sup>)、他者に無関心で情緒的な関わりを回避する (岡田, 1992<sup>8)</sup>) といった傾向が見受けられる。

柴原・遠藤・石井 (2011)<sup>9)</sup> は、このような日本人大学生の友人関係が希薄化する中で彼らの生きがい感について中国人留学生との比較調査を行った。近藤 (2007<sup>10)</sup>、2011<sup>11)</sup> は生きがい感を「自らの存在価値を意識し、現状に満足し、生きる意欲をもつ過程で感じられるものであるが、同時に人生を楽しむ場合にも感じられるもの」として定義づけている。この生きがい感の4因子 (存在価値・現状満足・意欲・人生享楽) のうち、「現状満足」では日本人大学生の方が高い傾向にあった

1) 近畿医療福祉大学 (Kinki Health Welfare University) 〒679-2217兵庫県神崎郡福崎町高岡196-5

が、それ以外は中国人留学生の方が高かった。特に「人生享楽」および「存在価値」において顕著であったが、これは留学経験が自国の文化を超えて多くを学ぶとともに留学生活を楽しみ、現状に満足せず異文化交流を通して新たな自己を発見し自らの存在価値を高めたいという要求と関係していると思われる。逆に、日本人大学生における留学者数の減少傾向は「現状満足」と関係しているものと推測できる。

人生享楽は、「明るく、よく笑い、人見知りせずのびのびと振る舞い、好奇心や積極性に富む」自我状態と関連し、存在価値は「目標が高く、理想を追求し、自分に厳しく責任感が強い」自我状態と関連していると考えらるなら、中国人留学生は日本人大学生と比較してこれらの自我状態が高い水準にあると推測できる。そこで、エゴグラム（東京大学心療内科 TEG 研究会）を利用して上記の点を検証することを本研究の目的とした。

## 方 法

**対象者** 中国人留学生93名（男性52名、女性41名）および留学経験のない日本人大学生131名（男性50名、女性81名）を対象とした。平均年齢は前者が23.4歳、後者が21.5歳であった。

**調査用紙** 東大式エゴグラム-新版 TEG II (2006)<sup>12)</sup> を利用し自我状態を測定した。こ

のスケールにおいて、自我状態は①親の自我状態 (P)、②大人の自我状態 (A)、③子どもの自我状態 (C) に区分される。さらに P は父親的な役割を担う批判的な自我状態 (CP) と母親的な役割を担う養育的な自我状態 (NP) に、C はもって生まれた自然な姿である自由な子ども (FC) と親の影響を受けた順応した子ども (AC) の自我状態に分けられる。表1に各自我状態と一般的特徴を示す。質問項目はL尺度3項目を加えた53項目から成っている。これらの質問項目に対し、「はい」「どちらでもない」「いいえ」の3件法による回答を求め、それぞれの回答に対して、2点、1点、0点を割り当て得点化した。

**調査時期と調査方法** 授業時間を利用し、中国人留学生に対しては2011年11月に、日本人大学生に対しては6月に実施した。大学生に調査用紙を配布した後、回答方法を説明し、各項目について回答を求めた。調査用紙ならびに回答用紙は、調査終了後にその場で回収した。

## 結 果

中国人留学生および日本人大学生における5つの自我状態の平均値 (SD) を男女別に表2に示す。

2 (国籍:日本・中国) × 2 (ジェンダー:

表1. 5つの自我状態と一般的特徴

自我状態	一般的特徴
CP	責任感が強い 厳格である 批判的である 理想をかかげる 完全主義
NP	思いやりがある 世話好き やさしい 受容的である 同情しやすい
A	現実的である 事実を重視する 沈着冷静である 効率的に行動する 客観性を重んじる
FC	自由奔放である 感情をストレートに表現する 明朗快活である 創造的である 活動的である
AC	人の評価を気にする 他者を優先する 遠慮がちである 自己主張が少ない よい子としてふるまう

表2. 5つの自我状態の平均値 (SD)

		CP	NP	A	FC	AC
中国	男性	12.4 (3.13)	16.4 (2.61)	13.9 (3.32)	12.8 (3.72)	10.6 (4.16)
	女性	12.8 (3.34)	16.1 (2.91)	13.8 (2.97)	14.4 (3.18)	11.1 (4.32)
日本	男性	9.2 (4.42)	11.7 (5.57)	11.6 (5.62)	9.5 (5.47)	13.4 (5.38)
	女性	10.1 (4.64)	12.5 (5.29)	9.3 (5.22)	10.8 (4.85)	13.8 (5.58)

男性・女性) × 5 (自我状態: CP・NP・A・FC・AC) の分散分析を行った結果、国籍 ( $F(1,220) = 41.08, p < .01$ ) および自我状態 ( $F(4,880) = 15.59, p < .01$ ) に主効果がみられたが、ジェンダーの主効果は有意でなかった ( $F < 1$ )。また、交互作用は国籍と自我状態 ( $F(4,880) = 24.89, p < .01$ ) およびジェンダーと自我状態 ( $F(4,880) = 3.20, p < .05$ ) の間でのみ有意であった。

下位検定の結果、ACは日本人大学生の方が中国人留学生よりも有意に高い ( $t_{222} = 4.17, p < .01$ ) が、CP ( $t_{222} = 5.09, p < .01$ )、NP ( $t_{222}$

$= 6.71, p < .01$ )、A ( $t_{222} = 5.81, p < .01$ ) およびFC ( $t_{222} = 5.28, p < .01$ ) はすべて中国人留学生の方が有意に高かった (図1参照)。また、日本人大学生の場合Aは男性の方が女性より有意に高く ( $t_{129} = 2.37, p < .05$ )、中国人留学生では女性の方が男性よりFCが有意に高い ( $t_{91} = 2.21, p < .05$ ) ことも分かった。

また、5つの自我状態に対し相関分析を行った結果、中国人留学生の場合、ACを除いた他の3つの自我状態、NP、A、FCの間では互いに有意な相関関係にあることが分

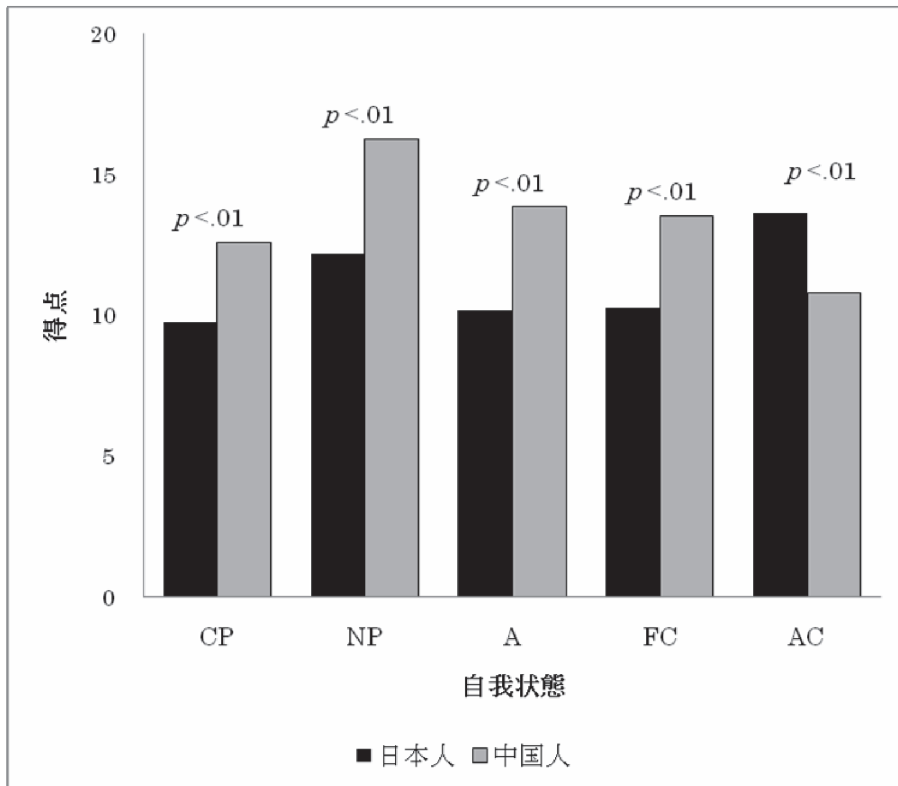


図1. 各自我状態における日本人大学生と中国人留学生との比較

表3. 中国人留学生における5つの自我状態の相関

	CP	NP	A	FC	AC
CP	1.00	.350**	.229*	.323**	.157
NP		1.00	.343**	.298**	.084
A			1.00	.274**	-.037
FC				1.00	-.096
AC					1.00

\* $p < .05$  \*\* $p < .01$

表4. 日本人大学生における5つの自我状態の相関

	CP	NP	A	FC	AC
CP	1.00	.382**	.401**	.379**	-.324**
NP		1.00	.107	.467**	.069
A			1.00	.041	-.071
FC				1.00	-.152
AC					1.00

\* $p < .05$  \*\* $p < .01$

表5. エゴグラム・パターンの分類と特徴

TEG パターン	タイプ	特 徴
1. CP 優位型	権威主義	責任感が強く、理想を追求し自他ともに厳しい。
2. NP 優位型	世話やき	人に優しく、相手の気持ちを理解し面倒見がよい。
3. A 優位型	論理的	知的で有能であるが、理屈っぽく冷たい面がある。
4. FC 優位型	自由奔放	好奇心旺盛でネアカの人。ただし、周囲への気遣いが少ない。
5. AC 優位型	依存者	「No」と言えない性格で、自ら考え先頭に立って行動するのが苦手。
6. CP 低位型	ルーズ	控えめで、自他ともに甘く、細かいことに拘らない。
7. NP 低位型	癩癩もち	人に対して厳しく攻撃的で、思いやりがない。
8. A 低位型	現実無視	あまり論理的、知性的でなく現実認識ができていない。
9. FC 低位型	ネクラ	自由にはしゃいで楽しむことができず、頑固で厳格な性格。
10. AC 低位型	ワンマン	指導力があるが自分の思う通りに行動し、他人に盲従を強制。
11. 台形型 I	マイフォーム主義	知的で周囲への配慮もでき自他肯定的。特に身内に甘い。
台形型 II	ボランティア	自己犠牲的で他人を助けることに喜びを感じる。
台形型 III	自己中心的	人に対する思いやりに欠け、自分が楽しければよいという性格。
12. U 型 I	自己否定的	義務感や責任感が高いが、十分に自己主張できない。
U 型 II	衝動的	イライラを我慢するが、ちょっとしたことがきっかけで爆発する。
U 型 III	いじけ	周囲への不満を持ちつつも一生懸命尽くす。
13. N 型 I	お人好し	頼まれた事や命令された事を無批判に引き受ける。
N 型 II	殉教者	能率よく仕事をこなすも楽しむことなく、我慢して滅私奉公。
N 型 III	ワーカホリック	献身的に働き、不満を言わず指図に従うイエスマン。
14. 逆 N 型 I	頑固な警官	社会規範や規則を厳守するが、優しさや思いやりに欠ける。
逆 N 型 II	プレイボーイ	他人に厳しく自分に甘く、思いやりに欠ける。
逆 N 型 III	気分屋	感情に振り回され現実認識が低く、失敗すると他人のせいにする。
15. M 型	親分肌	人に優しく面倒見が良いと同時に、陽気で面白い人。
16. W 型	自己破壊的	批判精神が強く怒っぽいが、それが自分に向けられ自虐的になる。
17. 平坦型 I	スーパーマン	意欲的かつ活動的だが、頑張り過ぎる傾向がある。
平坦型 II	凡人	平均的で個性に欠けて面白みがない。
平坦型 III	引きこもり	物静かで控えめで引きこもりがち。
18. P 優位型	リーダー	責任感が強く、人に優しく思いやりがあるが、上から視線。
19. C 優位型	冒険家	気分屋でいつも相手に依存し、スリルや快楽を追求する。

かった(表3参照)。日本人大学生では、CP と AC との間に有意な負の相関が、CP と他

表 6. 日本人大学生および中国人留学生における TEG パターン分布 (人数)

TEG パターン	日本人大学生			中国人留学生		
	男性 (50名)	女性 (81名)	合計 (131名)	男性 (52名)	女性 (41名)	合計 (93名)
1. CP 優位型	1	2	3	0	3	3
2. NP 優位型	2	4	6	16	5	21
3. A 優位型	6	5	11	3	7	10
4. FC 優位型	2	5	7	2	4	6
5. AC 優位型	15	24	39	3	1	4
6. CP 低位型	2	5	7	1	3	4
7. NP 低位型	1	2	3	0	0	0
8. A 低位型	4	4	8	1	0	1
9. FC 低位型	1	4	5	1	1	2
10. AC 低位型	1	2	3	0	3	3
11. 台形型 I	1	1	2	3	0	3
台形型 II	1	1	2	1	2	3
台形型 III	1	0	1	1	1	2
12. U 型 I	0	1	1	0	0	0
U 型 II	1	0	1	0	0	0
U 型 III	0	1	1	0	0	0
13. N 型 I	1	6	7	2	0	2
N 型 II	1	1	2	0	1	1
N 型 III	2	0	2	0	1	1
14. 逆 N 型 I	1	3	4	0	1	1
逆 N 型 II	1	0	1	1	3	4
逆 N 型 III	0	0	0	1	0	1
15. M 型	0	0	0	3	3	6
16. W 型	2	5	7	0	0	0
17. 平坦型 I	0	0	0	0	0	0
平坦型 II	0	3	3	9	1	10
平坦型 III	0	0	0	0	0	0
18. P 優位型	1	2	3	4	1	5
19. C 優位型	2	0	2	0	0	0

の3つの自我状態との間には有意な正の相関が見られた。また、NPとFCの間に有意な正の相関が見られた(表4参照)。両者の主な違いは、①中国人留学生ではAはNPおよびFCとの間に正の相関が、②日本人大学生ではCPとACとの間に負の相関が見られたという点にある。

さらに、日本人大学生131名および中国人留学生93名のそれぞれの自我状態をパターン別に分類することを試みた。表5に示すように、一般に自我状態を表す5つの尺度の高低によって19種類のエゴグラム・パターンが抽

出されている(芳田・前山,1999<sup>13)</sup>;東京大学医学部心療内科 TEG 研究会,2006<sup>12)</sup>参照)が、これに従って分類すると、日本人大学生と中国人留学生におけるエゴグラム・パターン分布は表6のようになった。また、男女合計のパターン分布の出現頻度(%)をグラフにしたものが図2である。日本人大学生にはAC優位型が多いが中国人留学生にはNP優位型が多く、またW型は日本人大学生にのみM型は中国人留学生にのみ見られたのが特徴的であった。

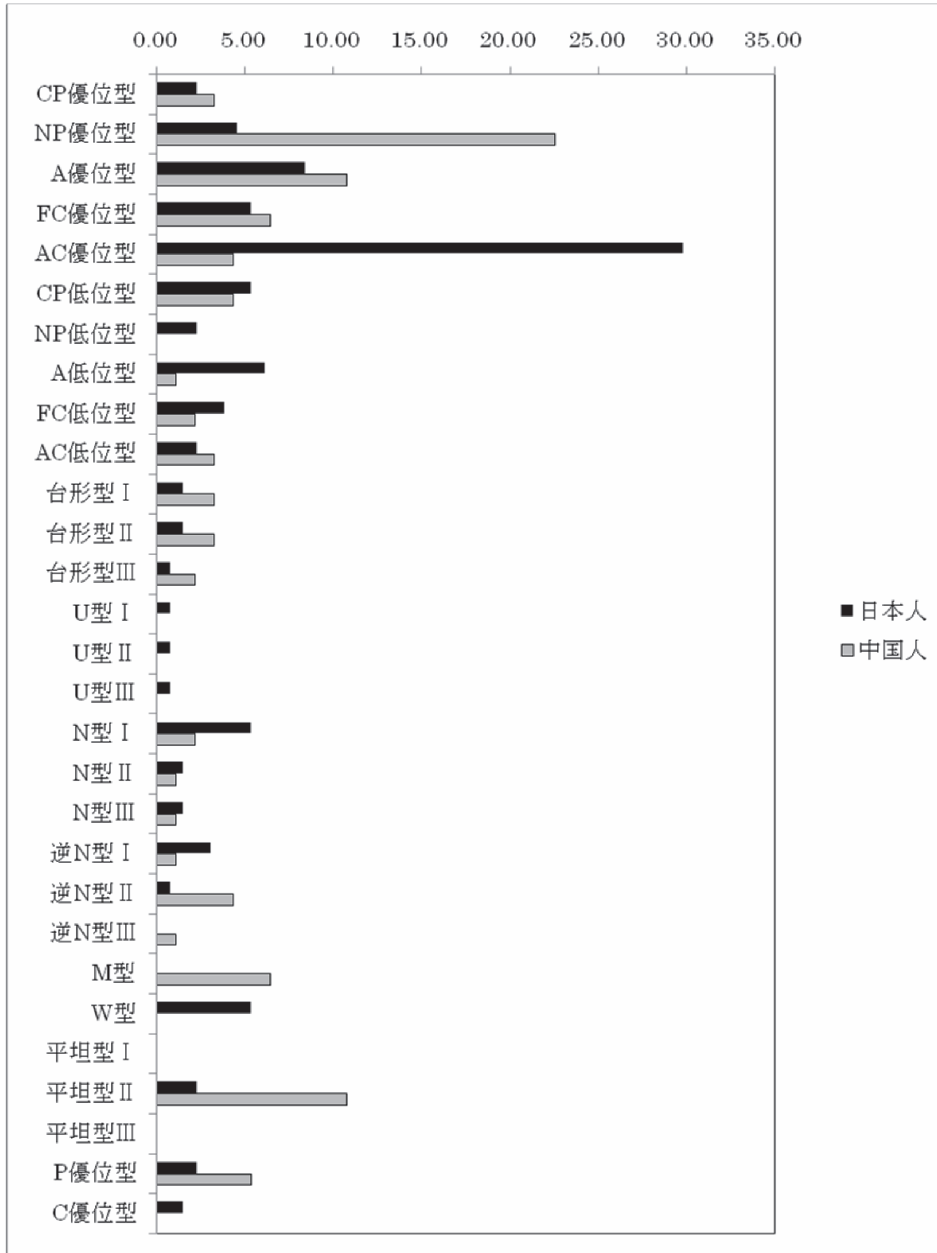


図2. 日本人大学生と中国人留学生における TEG パターン分布 (%)

## 考 察

### 平均値の比較

日本人大学生と比べ、生きがい感は「人生享楽」および「存在価値」因子において中国人留学生で高いことから、自由奔放で感情を

ストレートに表現し明朗快活を特徴とするFCと、批判的で理想を掲げる完全主義を特徴とするCPが中国人留学生で相対的に高い水準にあるとの仮説を立てて調査したが、結果はこれを支持している。また、寛容的で共感的な自我状態(NP)と合理的で冷静な自

我状態（A）においても中国人留学生の方が高い水準にあることが分かったが、①中国人留学生の方が2歳ほど年上であること、②留学生生活における、学生間の相互の助け合いや学修計画を立ててそれを実行するための合理的な判断の必要性などが影響しているものと思われる。ACでは逆に日本人大学生の方が有意に高かったが、ACが従順で素直であるが主体性に欠け周囲に合わせようとする自我状態であることを考えると、これは最近の日本における現代青年の特質と関係があると推測できる。

#### 相関による比較

中国人留学生でNP、A、FCの間で正の相関関係が見られたことから、他人に対して思いやりがあり世話好きな母親的な自我水準が高い者ほど客観的かつ理性的に物事を判断できる大人の自我態度が高く、また対人場面において自分を自由に表現できる自我態度も高い傾向にあることが示された。しかし、日本人大学生にはこのような傾向は見られなかった。逆に、日本人大学生でCPとACとの間に負の相関が見られたことから、自己主張が少なく良い子として振る舞おうとする従順な子どもの自我態度が高い者ほど責任感が強く批判的で父親的な自我水準が低い傾向にあることが分かった。中国人留学生にはこの傾向は見られなかった。

#### 個別データによる比較

エゴグラム・パターンで最も頻度が多かったのが、日本人大学生の場合デュセイによって「依存者」と命名されたAC優位型で、人に気遣いして「No」と言えず、上から与えられた仕事についてはこなすが、自ら先頭に立って何かを成就することは苦手なタイプであり、全体の約3割を占めた。中国人留学生

では、世話好きで優しく受容的を特徴とするNP優位型が約2割を占めた。

また、割合としては少ないが、W型は日本人大学生だけに（5.3%）、M型は中国人留学生だけに（6.5%）見られた。W型はデュセイが「自殺者」と名付けた自他否定型のあまり望ましくないパターンの1つであり、その特徴は義務感、責任感、批判精神は高く、周囲への気遣いも強い上に、十分に自己主張ができないために葛藤をため込み、その怒りが自分に向けて自虐的になりやすいことである。M型は人に優しく世話やきで面倒見がよいと同時に、陽気にはしゃいで自分も楽しむ愛情型で好感をもたれることが多いが、CPやAが低すぎると社会の規範や規則を無視して突っ走るタイプでもある。

#### 今後の課題

以上、日本人大学生の結果は、福祉系大学の心理学科に所属し社会福祉士あるいは精神保健福祉士を目指す学生を被検査者として得られたもので、これを一般化することはできない。実際、保育学生（永房典之・伊澤永修・星道子, 2006<sup>14</sup>）や看護学生（武藤眞佐子, 1995<sup>15</sup>；任和子・豊田久美子・中井義勝・菅佐和子, 1997<sup>16</sup>）を対象にした調査とは違いが見られる。福祉系の大学で心理学を学習したいと希望する高校生の中には、メンタルなケアを必要とするものも存在し、これがエゴグラムの結果に表れている可能性も否定できない。しかし、本結果は卒業後に病院や施設等で働く福祉専門職員に相応しい資質を備えた学生を養成するにあたって参考となる。利用者へのケアやコミュニケーションをはかる養育的な親の自我状態（NP）や、データに基づき合理的に判断し冷静に行動できる大人の自我状態（A）を高めることは必要であり、現場実習を通して達成できるようにプロ

グラムを編成するのも方法の1つである。

## 参考文献

1. 福井康之: 青年期の対人恐怖. 金剛出版, 2007
2. 岡田努: 青年期の友人関係と自己 - 現代青年の友人認知と自己の発達. 世界思想社, 2010
3. 岡田努: 学生相談からみた現代青年の特徴. 文教大学保健センター年報, 8, 24-26. 1988
4. 岡田努: 学生相談からみた現代青年の特徴 第2報. 文教大学保健センター年報, 9, 18-21. 1989
5. 千石保: 「まじめ」の崩壊 - 平成日本の若者たち. サイマル出版会. 1991
6. 千石保: 現代若者論 - ポスト・モラトリアムへの模索. 弘文堂. 1985
7. 栗原彬: やさしさの存在証明 - 若者と制度のインターフェイス. 新曜社. 1989
8. 岡田努: 友人とかかわる. 対人心理学の最前線 (松井豊編), P22-26. サイエンス社, 1992
9. 柴原直樹・遠藤正雄・石井恒生: 中国人留学生と日本人大学生の生きがい感の比較. 近畿医療福祉大学紀要
10. 近藤勉: 生きがいを測る. ナカニシヤ出版, 2007
11. 近藤勉: 生きがい感を測る, 生きがい研究, 17, 4-20, 2011
12. 東京大学医学部心療内科 TEG 研究会 / 編: 新版 TEG II 解説とエゴグラム・パターン. 金子書房, 2006
13. 芳田章子・前山直: 看護学生の自我状態とストレス反応との関連. 藍野学院紀要 第13号, 45-53, 1999
14. 永房典之・伊澤永修・星道子: 保育学生のエゴグラムにおける性差の検討. 東京文化短期大学紀要 第23号, 1-4 2006
15. 武藤眞佐子: エゴグラムからみた看護学生の特徴. 岩手女子看護短期大学紀要 第3号, 17-32 1995
16. 任和子・豊田久美子・中井義勝・菅佐和子: エゴグラムからみた看護学生の自我状態の変化. 京都大学医療技術短期大学部紀要別冊 健康人間学 第9号, 73-78 1997